

小院瀨見の新拠点

# 再生公民館華やかにデビュー



昨年から改修整備を終えて今春、再スタートを切った小院瀨見公民館のお披露目イベントが4月20日に関ヶ越、地元出身者や農作業でこの地に通う人たち、江ざらいなどで協力する近隣地域や県外からの関係者ら100人以上が詰めかけた。昔と変わらぬ自然環境を満喫したりかつての小院瀨見分校時代を懐かしんだり。普段は静かな限界集落が新たな交流拠点誕生で大いに沸き立った。(2ページに関連記事)

## お披露目イベントに100人超 地元産米餅つきに集落沸く



おしゃれな装いの2階ではスイーツやグッズの販売コーナーも

昭和47(1972)年、廃校となった西太美小学校小院瀨見分校舎を活用する形で開館した公民館。その後の急激な過疎化で役目を果たせなくなり15年ほど前から使われずに荒廃していたが、ここ数年で集落を訪れる関係人口が増え、たことから、小院瀨見自治会が1年がかりで修復、改装を進めてきた。

お披露目イベントは、出身者や関係者に現状を知ってもらい、集落の活性化を図る目的で自治会が企画。小院瀨見産の自然栽培米や小院瀨見新聞などとともに案内状を配布して来場を呼びつけた。

荒天の天気予報が外れ、



開事前から続々と参加者が到着した。館内には昭和38年19年19年に分校に新任教師が赴任した故・中村勇さんが作成したアルバムから、集落の夏子さんに承諾をいって、当時の写真を展示した。出身者有志らから寄せられた写真もスライドにすると披露した。

地元の住民はじめ、集落内の田圃で耕作する女性ら主体の一般社団法人「Honey&Cotton(ハニー&コットン)」や「ニード&コットン」や「畑田」が連携して、小院瀨見産の自然栽培米や小院瀨見新聞などとともに案内状を配布して来場を呼びつけた。

荒天の天気予報が外れ、



つきたてのお餅をみんなで丸める

つきたてのお餅をみんなで丸める

の来場者も多く、都合で来場できなかった出身者や関係者からは寸志や菓子類、飲料などの差し入れも届けられた。館内外では住民や出身者と、ハニコなどの若者が交流を深める場面も見られた。

改修の資金を支援した公益社団法人南砺幸世会、県の中山間地域チャレンジ支援事業の関係者も参加した。

登が敷かれソファや置かれた1階に主催者や来場者が集まり、自治会の塩菜夫区長があいさつ。十分に活用していただき、皆さんが幸せになってほしいと呼びかけた。

イベント後は早速、江ざらい参加者やハニコ、小院瀨見くらぶはじめ集落を訪ねた人が休憩や整頓に使用。地区の新拠点として親しまれている。



冬にたまった枝葉を除去してすっきり水路

小院瀨見の農作業を支える水路を整備する今年最初の江ざらいが4月26日、福光温泉園から集落の南西方向へ山を上った中、Honey&Cottonや小院瀨見くらぶ、県内や小院瀨見から、農作業の登りや、市道や林道沿い、集落上部を流れる水路にたまった樹木の枝や葉、土などを手に現場へ入るなど、作業を進めた。

今回も地元住民や、西太美地区自治振興会が協力し、集落の南西方向へ山を上った中、Honey&Cottonや小院瀨見くらぶ、県内や小院瀨見から、農作業の登りや、市道や林道沿い、集落上部を流れる水路にたまった樹木の枝や葉、土などを手に現場へ入るなど、作業を進めた。

「こいんぜみ〜」で留笑

春の江ざらいでは、最近、イシシガキで「猪被害」少なく「順調に作業」

水路が土砂で埋まっているケースが多発しているが、今年は少なく、比較的順調に作業が進んだ。ただ、大雪の影響で枝折れがひどく、枝葉が水路を埋めている所も、2時間余りで道路脇にたどり着き上げられ、重機でさらえた。



山口さんが描いた分校イラスト

山口清一さん  
当時思い出し

4月20日のお披露目イベントで公表した図は、新館建設前に教室や図書室として使われていた本館で子供たちが学ぶ様子を、本館、新館の平面図、昭和27年に学んでいた山口さんら児童全員の集合写真を元に描かれた。

## 2面 新企画「探検 小院瀨見」スタート

つきたてのお餅をみんなで丸める

お披露目イベントに100人超 地元産米餅つきに集落沸く

昔の分校内部を描写

猪被害少なく 順調に作業

山口清一さん 当時思い出し

新企画「探検 小院瀨見」スタート









小院瀬見新聞

2025年7月号

小院瀬見新聞社

〒939-1764 富山県南砺市吉見70番地 編集担当 中島健二 電080-6359-3992

2面の連載

探検小院瀬見 山中に謎の石版 文字か数の印か



自然栽培 小院瀬見

美しき田園 急がれる渇水対策

命綱唯一の水路も流量は限界

猛暑少雨で水不足頻発 課題を露呈

農業も肥料も使わない「自然栽培の里」を謳(うた)う小院瀬見の田んぼで今夏、稲作には欠かせない水の不足がたびたび発生、集落における今後の米づくりの課題を浮き彫りにした。農業向けの水は地区を貫く水路が事実上唯一の供給源だが、現状の耕作地を附う量としてはほぼ限界状態。来季には耕作の拡大も計画されており、自治会は水路の機能調査を行うなど対策に乗り出す考えだ。

小院瀬見では、集落内での農業や養蜂なども展開するHoney&Cotton(ハニー・アンド・コットン)通称「ニコ」をはじめ、金沢市や富山県内各地から通いながら即成寺農の耕作放棄地だった圃田を復活させた小院瀬見くらぶが稲作を行っている。さらに稲光麻布復興を軸に自然と共に暮らす豊かな農村実現を目指して活動する。

自治会が水量調査 秋に修繕

特に今年の6月は梅雨入り後も雨が降らない日が続く。稲作が本格化する中、公団の側溝に広がるハニコが耕作する田んぼで水が不足傾向となった。公団から100ほど下流の水路の終点まで水が漏れず、U字溝の底が乾く事態もたびたび起き



自力で行った水路の流量調査。標本がらみ流れる時間と水深、水路幅から算出し7月6日撮影

自治会では、水門付近の大谷川の石の配置を調査する。水量変化の調査を行った。その結果、集落を通過する路上上の取水口の確保など、水もして事なきを得た。だが、下流での流量減少は悪化する。U字溝の底が乾くなど、漏水が原因とみられ、今後悪化する可能性が高い。今後は、小院瀬見では関係人口の増加もあり、耕作放棄地となつていく集落。耕作地が増えていく。水は大きな問題なので慎重に考えてほしい」と話している。



美しい田園も水不足は悩み

自治会は、水門付近の大谷川の石の配置を調査する。水量変化の調査を行った。その結果、集落を通過する路上上の取水口の確保など、水もして事なきを得た。だが、下流での流量減少は悪化する。U字溝の底が乾くなど、漏水が原因とみられ、今後悪化する可能性が高い。今後は、小院瀬見では関係人口の増加もあり、耕作放棄地となつていく集落。耕作地が増えていく。水は大きな問題なので慎重に考えてほしい」と話している。



水路の水源地・大谷川では石の配置で流量調整

水源地の水源地・大谷川では石の配置で流量調整

水守れ 草刈りに30人

小院瀬見自治会が29日、地域をのりしを支える水路の供給を維持するため、集落を貫く水路の草刈りを行った。参加した富山大学教育学部生3人も応募。総勢30人ほどが草刈り機や鎌、スコップなどを手に山へ入った。森林サポーターは草刈り機や鎌、スコップなどを手に山へ入った。森林サポーターは草刈り機や鎌、スコップなどを手に山へ入った。森林サポーターは草刈り機や鎌、スコップなどを手に山へ入った。

星稜大生が田んぼの草刈り体験

集落住民は4世帯8人しかいない。今後は富山県のホームページなどを通じての暮らしを支える水路の供給を維持するため、集落を貫く水路の草刈りを行った。参加した富山大学教育学部生3人も応募。総勢30人ほどが草刈り機や鎌、スコップなどを手に山へ入った。森林サポーターは草刈り機や鎌、スコップなどを手に山へ入った。

小院瀬見の実情を「取材」 草刈り参加の富大生

自治会の専業を営んで、自身で決めて調査する水路の草刈りに加わったという学部生3人。富山大学教育学部生3人も応募。総勢30人ほどが草刈り機や鎌、スコップなどを手に山へ入った。森林サポーターは草刈り機や鎌、スコップなどを手に山へ入った。



水口豊洋さん(左)に取材。神明社の歴史を聞く富大生

2面







# 小院瀬見に「Casa出版」誕生



小院瀬見新聞社  
〒939-1764  
富山県南砺市  
吉見70番地  
編集担当 中島健二  
電080-6359-3992

## 集落初の本づくり「独立機関」

### 「村が生きていくために」堀代表

南砺市の小院瀬見地区に本拠を置き、本や雑誌を企画、制作、発行するCasa（カーサ）出版が今夏、誕生した。地区ではこれまで桂書房（富山市）が小院瀬見編集所として南砺や地元関係書籍の発行業務を行ってきたが、編集所代表の堀宗夫さん（74）は「地区自治会長」が桂書房から独立させる形で設立。既に最初の書籍も発行し今後、独自の企画編集出版を展開しながら集落自立に向けての輪にしたい。

「Casa」は、福光麻布の復興を主体に自然と共に暮らす農村実現を目指して堀さんら有志あるメンバーが集まって発足し、小院瀬見を拠点に活動している団体の名称。語源は「故郷」や「家」を意味するスペイン語で、地区復興の象徴的存在でもあり、出版社として採用。6月に設立手続きを終えた。

7月末に最初の出版として発行したのは、岐阜県飛騨市の元保険会社サラリーマンでそば打ちからそばの新品種開発まで手がけ、SNS投稿も人気を博す石田五十六さんのブログ集「ダメンズの独り言百八話」。知人からの紹介を受けた堀さんが編集を担当し、小院瀬見出身者の親族で新進気鋭の画家、いとうka（いつか）さんが表紙ながら昭和の味わりとも

「第二弾はブログ集『神槍は筆落し出者親族』」に続く第二弾として、旧砺波郡地域のぎわい創出につながる書籍「なみ野ストーリー」の第一号を近く発行する。

代表の堀さんは富山出身。富山県内の大手企業を定年退職後、桂書房に呼びかけて、富山の今昔の街歩きを歴史的地図に重ね合わせた「ダメンズ」の制作、出版。その一つとして、南砺市の福光麻布一帯で古くから作られていたながら昭和の味わりとも



Casa出版の編集作業に臨む堀宗夫代表

その後、桂書房の小院瀬見編集部を開設。これまで地域の歴史・文化をはじめ、世界に知られた版画家で福光に疎開していた桂方志や関係の書籍など20冊近くを出版してきた。そんな堀さんが受けてやまない小院瀬見だが現在、常時居住



猛暑・渇水影響なく順調生育

2面  
糸文化の集中研修  
簡易フリスで獣害ゼロ  
山里の月一居酒屋大盛況

## 収穫の秋自前 田圃は豊作の予感も

小院瀬見の公民館南側に育っていた。イノシシに市道と林を隔てて広がった田圃では9月中旬、コシヒカリなどの稲が順調に育っている。今夏は過酷な気象が続いたが、稲穂も高まっている。

## 猛暑・渇水影響なく順調生育

小院瀬見の公民館南側に育っていた。イノシシに市道と林を隔てて広がった田圃では9月中旬、コシヒカリなどの稲が順調に育っている。今夏は過酷な気象が続いたが、稲穂も高まっている。

## ダメンズの独り言百八話



石田五十六著

保険会社のサラリーマンとして全国を転動した著者が2024年にブログ「NOTE」に投稿した中の108話を収録。軽快で自由な表現に吸い込まれるような感覚で時間を忘れた。

## 食糧危機の原点も突く 庶民目線 怪快に不合理切る

食の安全保障に話がながるし政治や国際紛争、憲法論、資本主義、メディアなど幅広いに圧倒される。難解ではない。言葉や文章の組み合わせの妙、分りやすく多彩な言葉が先入観を解きほぐしてくる。

## 庶民目線 怪快に不合理切る

食の安全保障に話がながるし政治や国際紛争、憲法論、資本主義、メディアなど幅広いに圧倒される。難解ではない。言葉や文章の組み合わせの妙、分りやすく多彩な言葉が先入観を解きほぐしてくる。



itukaさんの神絵





小院瀬見  
カレンダー

【11月】

3日「福光麻布」をたどるバスツアー（日本麻フェスティバル関連行事）9時～

29日「今年最終の江ざらい（草刈りや土砂上げなど）7時45分に即成寺跡集合

※越中福光麻布ギャラリー、かつての麻栽培地・立野脇など見学



大きな民家がちりばめられたように広がる砺波散居村をはじめ、家の様式やたすまい、農産物や特産物、報恩講などの料理、宗教祭礼、石仏などの解説が写真とともに100近くにわたって掲載されている。

砺波平野を代表する景観として知られる「砺波散居村」は美しい俯瞰（ふかん）写真を大きく載せ、その形成が江戸時代以来の開拓に始まったことなどを説明。「カイニ」と呼ばれる屋敷林も樹木の配置が方角によって種類分けされていることを記し、この地ならではの民家の建築様式であるアスマダチの語源には諸説

散居村にアスマダチ、カイニ、土徳、種もみ。南砺市、砺波市、小矢部市などの旧砺波郡地域には特徴的な歴史に根付いた文化、風物が数多くあるという。そんな地方の事象を、地域文化研究の専門家から読み解くように紹介掘り下げた「となみ野ストーリー」が10月に発行された。発行元のCasa（カーサ）出版（南砺市小院瀬見）は、地元の人

砺波地域 貴重な歴史と風土知って

「となみ野ストーリー」発刊

あることも特徴的に挙げている。

「真宗王国の欄では、砺波地方に真宗が広がっていった歴史をひも解き、それにつなげる報恩講などの祝い膳の中身も解説。東京浅草の浅草寺との深い縁もつづいてい

砺波市の尾田武雄さん執筆

美しい郷里への愛を込めて

堀さんは「砺波はずばらしいが、このままでは貴重な伝承が消えてしまう。埋もれた歴史を表に出さないといけない」と強調。11月15日には午前10時から、と

著者は北陸石仏の会事務局長、砺波土蔵の会長、日本石仏協会理事などを務める砺波市生まれの尾田武雄さん。「ずばらしい砺波の風土、心を知っていたいだけく糸口にしていただければ」「砺波を愛することは、知ることから始まる」と前置きなどに記すように旧砺波郡への熱い思いを抱いている。

同様にこの地を大切に考へるCasa出版の堀宗夫代表と意気投合し今年春から発刊を計画。尾田さんから発刊を計画。尾田さんが元元著した。表紙は、小院瀬見出身者の親族である画家のituka（いつか）さんが制作した。



散居村の紹介では美しい俯瞰写真を掲載

**豪雨災害の爪痕復旧 秋の江ざらいに30人**

小院瀬見の田圃や畑田あり、参加者はスコップや草刈り機、チェーンソーなどを手に懸命の復旧作業に当たった。今年3回目の実施だが、特に今回は、夏の豪雨で水源の導水口が土砂で埋まると、集落の住民や出身者、ハニー・アンド・コットン、小丸、大谷川水源地は、度重なる大雨で水の取り入れ水門一帯が機能不全の状態に。機力自慢の参加者たちは、小丸、大谷川水源地の爪痕が多数、係者を始め、県のとやま農村・農業サポートセンターが除去して、自主的に参加を申し出て、汗かいて集中できたと満足そうだった。

水路も埋まり、懸命の除去作業

水路埋めた土砂上げに懸命

懐かしの足踏み脱穀に悪戦苦闘 子供も挑戦

**「ハニコ田んぼで収穫イベント」**

自然栽培の里、小院瀬見の田んぼで農業も肥料も使わない米づくりの体験プログラム「EVRYBODY TANOBO（エブリバディ・タンボ）」の収穫イベントが10月12日に集落の田圃で開かれた。富山市や金沢市などから4組の家族連れなど20人近くが参加。田圃内で栽培されている7種類の古代米のうち稲穂の茎が大きな花のように開く品種「長粒赤」を刈り取った。稲は近くの山口家の古民家に持ち込み、足踏み脱穀機の作業も行ったが、回転させて穂先から籾を落とす田圃形の脱穀（こきとう）がうまく回らず悪戦苦闘。子供らと懸命に取り組む姿が見られた。富山市から自然に触れる機会を求め子供3人と参加した垣内歌代さん（49）は「小院瀬見にしかない風景がある。子供の頃の思い出と感動した様子。小学4年の晴登（はると）さんは「稲の茎が硬くて刈るのが大変だったけど気持ちいい」と楽しんでた。小院瀬見は集落より上流に民家や田畑がなく、純粋な無農薬が現実化された場所。今回のプログラムは、その環境で米をつくり、生き物や草花との関わりを知ること、自然と自分とのつながりについて考えてもらおうとHoney & Cotton（ハニコ）が企画。5月から毎月、作業イベントを開いてきた。



田んぼの収穫体験で足踏み脱穀機に子供も挑戦

# 麻糸づくり 知られざる遺構初公開

麻布ツアーで初公開された、麻を柔らかくする自然発酵用の水をためた池。南砺市立野脇で



麻は7月に収穫し、お盆過ぎまで天日で乾燥させる。干せたら池の脇に板を敷き、雑草を厚めに積み上げミノロをかぶせ

麻加工用の池が残っているのは南砺市の小矢部川上流にある立野脇。今回のツアーを企画した越中福光麻布ギャラリー(同市網掛)によると立野脇では昔、集落一帯の畑で麻が栽培され、その茎から剥いた皮の繊維を取り出し整いで糸にしたものを福光の中心街にあった問屋に出していた。現在、わずかの世帯が残るだけの集落だが、往時は20世帯ほどあった家の多くが麻畑を持ち、それぞれ敷地に池があったという。

昭和の初めまで南砺市福光地域の基幹産業だった福光麻布の糸づくりのため市内の中山間地に造られた池の跡が、11月3日に市内で行われた「福光麻布をたどるバスツアー」で初めて公に披露された。池は固い麻の茎から皮を剥(は)ぎやすくするのに使われた水をためるためのもの。その水による自然発酵で火を使わずに茎を柔らかくした仕組みは極めて珍しいとされ、環境に優しい産業遺産として注目を集めそうだ。(2面に関連記事)

## 立野脇に残る自然発酵用貯水池 福光麻布バスツアーで参加者注目

昭和の初めまで南砺市福光地域の基幹産業だった福光麻布の糸づくりのため市内の中山間地に造られた池の跡が、11月3日に市内で行われた「福光麻布をたどるバスツアー」で初めて公に披露された。池は固い麻の茎から皮を剥(は)ぎやすくするのに使われた水をためるためのもの。その水による自然発酵で火を使わずに茎を柔らかくした仕組みは極めて珍しいとされ、環境に優しい産業遺産として注目を集めそうだ。(2面に関連記事)



2025年11月号  
小院瀬見新聞社  
〒939-1764  
富山県南砺市  
吉見70番地  
編集担当 中島健二  
電080-6359-3992

## 2面 太美山でお宝探訪



立野脇の周囲の山にはかつて麻畑があった。奥の山の杉林には今も痕跡があるという。

麻加工用の池が残っているのは南砺市の小矢部川上流にある立野脇。今回のツアーを企画した越中福光麻布ギャラリー(同市網掛)によると立野脇では昔、集落一帯の畑で麻が栽培され、その茎から剥いた皮の繊維を取り出し整いで糸にしたものを福光の中心街にあった問屋に出していた。現在、わずかの世帯が残るだけの集落だが、往時は20世帯ほどあった家の多くが麻畑を持ち、それぞれ敷地に池があったという。

先人の知見に感動 昭和に入ると絹の台頭で麻は一気に衰退し昭和30年ころには麻糸づくりは集落から消滅。池の多くは野菜畑などにされたが今も痕跡がいくつも残る。中でも集落中央部にあり、住民が共

その上に麻を敷き、さらにムシロで覆って池の水をかける2日ほどで発酵。その発酵熱が中を十分熱くし麻は蒸された状態に、柔らかくならねば取り出して皮を剥く。この蒸す作業を戻り返ししながら皮から掻き出すように繊維を取り出していく。

### 秋の絶景募集中

西太美地域の協が「フォトコン」の自然などを対象とした秋のフォトコンテスト「西太美」の作品を募集している。秋の美しさを表現された作品が発表される。応募は11月10日まで西太美交流センターへ。

ルカLINEで。詳細はホームページ

「福光麻布」古くから麻が栽培された福光では江戸期に全国有数の麻布集散地となり1940(昭和15)年には手織り機が1万台あった。戦後は急速に衰退。昭和天皇の大喪の礼の装束に用いられたが2000(平成12)年に最後の取扱商店が閉店、幕を閉じた。

先人の知見に感動 昭和に入ると絹の台頭で麻は一気に衰退し昭和30年ころには麻糸づくりは集落から消滅。池の多くは野菜畑などにされたが今も痕跡がいくつも残る。中でも集落中央部にあり、住民が共

来春の絶景へレンゲ播種 小院瀬見の集落西端にある耕作放棄地での秋、レンゲの種がまかれた。順調に生育して、来春には赤紫色の花が咲きそろう。新たな絶景がお目見えする。自治会区長の堀秀夫さんが計画し10月、約15坪のほ場を耕して播種した。「景観をよくし、地力改善にもつなげたい」と堀さん。放棄されて10年以上経過し激しくぬかるむ土地が荒れていることから、土壌に採取組んでおり、その蜜源にもなるのは確実。中山間地の活性化推進も期待される。

## 西太美男デイズムデビュー 無農薬田で園児稲刈り

### 西太美地域の協が「フォトコン」

秋の美しさを表現された作品が発表される。応募は11月10日まで西太美交流センターへ。



来春の絶景へレンゲ播種 小院瀬見の集落西端にある耕作放棄地での秋、レンゲの種がまかれた。順調に生育して、来春には赤紫色の花が咲きそろう。新たな絶景がお目見えする。自治会区長の堀秀夫さんが計画し10月、約15坪のほ場を耕して播種した。「景観をよくし、地力改善にもつなげたい」と堀さん。放棄されて10年以上経過し激しくぬかるむ土地が荒れていることから、土壌に採取組んでおり、その蜜源にもなるのは確実。中山間地の活性化推進も期待される。

来春の絶景へレンゲ播種 小院瀬見の集落西端にある耕作放棄地での秋、レンゲの種がまかれた。順調に生育して、来春には赤紫色の花が咲きそろう。新たな絶景がお目見えする。自治会区長の堀秀夫さんが計画し10月、約15坪のほ場を耕して播種した。「景観をよくし、地力改善にもつなげたい」と堀さん。放棄されて10年以上経過し激しくぬかるむ土地が荒れていることから、土壌に採取組んでおり、その蜜源にもなるのは確実。中山間地の活性化推進も期待される。



# 懐かし 原風景 藁によう 後世に残したい



稲の藁（わら）束を積み上げて家のような姿にする「藁によう」づくりが、この秋、小院瀬見の即成寺跡で行われた。縄や蓆（むしろ）の材料となる藁を乾燥させるため、昔の人が自然に立ち向かう中で編み出した珠玉の技。極端な機械化で今や絶滅状態にあることから、小院瀬見自治会が作り方を知る歴史研究家を招いてイベントを企画し再現した。今後も続けながら、貴重な先人の知恵を後世に伝えていく。

## 即成寺跡で再現イベント 湯浅さん記憶呼び起こし指導



晩秋の色が深まった11月8日、快晴の下で開かれた藁にようイベントには、小院瀬見の自然や農業に関心のある南砺市内の11人が参加した。即成寺跡には某落や近隣の田んぼなどの収穫後に確保した藁が山積み。昨秋、桂書房小院瀬見編集室から、昔の田舎暮らしを歳時記風につづった「我が百姓の一年」を発売した湯浅直之さん（66）が講師となり、にようづくりにかかると、まずは稲干しした藁の束をのりづけついで束にする。藁の一部を握りながら両手で10束を一度

に肩に掛ける独特の手法で運び、藁束が中央に向くように円形に並べて直径1.5メートル、高さ50センチほどの土台を作る。その上と同じ藁束を中央に丸く並べていくが、この時、上に積んでいくに従って外へ少しずつはみ出させていくのがコツ。その結果、逆円錐の台形型になるため雨が中に入り込みにくくなる。この積み方では、その縄の先を、本体下部にぐるり巻いた別の縄に縛り付ければ完成だ。

一連の工程は傾斜した藁の上を雨が流れて地面に落ちるとともに、大量に積もる雪の重さにも耐える驚きの技術の集積。参加者は先人の知恵に感服していた。兵庫県洲本市から知人の紹介で参加した岡本東子さん（49）は「淡路島で無農薬、手作りの米づくりに参加してはいますが、藁は田んぼにまくだけ。このようなやり方を初めて知った。島でもやってみよう」と興味津々の様子だった。

藁によう作り方動画で紹介

QRコードをスマホで読み込むと作り方動画が出てきます。

## 早くも雪景色 驚く住民

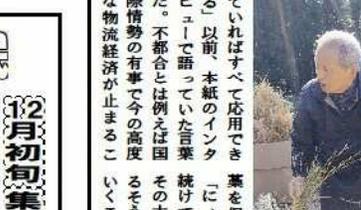
12月初旬集落に積雪観測 冬型の気圧配置 翌4日朝の集落は一面が真っ白。12月3日夜から4日にかけて、富山県内など日本海側では雪が降り、各地で初雪も観測された。南砺市内でも山間部を中心に雪が積もり、一時、激しい吹雪となった小院瀬見では一晩で10センチ前後の積雪となった。



白銀の世界に染まった集落の田園

## 昔の技 不測時にこそ必要

今回のイベントで、今はいらないと残念する。しか頼るものがなくなると言われる。だからこそ体験することが大事と訴える湯浅さん。必要だと言っている。そんな湯浅さんと段取りのやりとりをしながら、作業の実行役を担っていたのは杉森桂子さん。参加者は話を聞きつけた多くが、南砺市飛騨の農家に嫁いでから、サトイモの収穫後に来年度の栽培に必要な藁を保存させるための「藁を編む」技を習った。不都合とは例えは、その大切さを痛感している。主権は自治会にあり、自治会が主体的に開催する計画だ。



湯浅さん 将来に警鐘 湯浅さんによると、昔はこれより大きな藁束が、1・8メートル、直径1・5メートルほど。湯浅さんによると、昔はこれより大きな藁束が、1・8メートル、直径1・5メートルほど。湯浅さんによると、昔はこれより大きな藁束が、1・8メートル、直径1・5メートルほど。



小院瀬見新聞

2025年12月号

小院瀬見新聞社

〒939-1764 富山県南砺市吉見70番地

編集担当 中島健二

電話080-6359-3992

2面 冬に備え江さらい となみ野シンポ 今年も除夜の鐘 河北潟湖沼研が視察

# 「冬に備えろ！」 限界集落に60人集結



小院瀬見の冬の道路融雪に欠かせない水を確保するため集落内の水路や道路を整備する江ざらいが11月29日に行われた。まぶしい青空が広がる中、住民や地区出身をはじめ県内外各地からも有志のボランティアや団体グループなどが詰めかけ、参加人数は60人近くに。自治会によると過去最多で、わずか4世帯8人だけが住む限界集落の暮らしを守るべく懸命の作業を繰り広げた。

## 小院瀬見で江ざらい 融雪水確保へ水路整備

地区では年に4回の江ざらいを行っており、11月末はその年最後の冬に備える作業日となる。集落は積雪が多く、冬季に唯一の生活道路となる市道の通行を確保するため、集落の山側を流れる用水路から引いた水を道路に流して融雪する昔ながらの仕組みの維持が最大の目的。特に水路清掃を重点的に行っている。この日も午前8時前に旧即成寺跡に集まった参加者はグループ単位で方面別に分散。福光温泉橋左岸一帯から、集落西側の水路の水源地である大谷川の取水口、さらには中根集落までの2.5キロにわたり、道路脇にたどり着いた落ち葉や木の枝などを竹ぼうきなどで集めたほか、水路の底にたまっていた土砂などをスコップや鍬などで上げ、重機で運んだ。福光温泉橋付近では大量の土砂で一部埋まった状態の水路もあり、小院瀬見を

含む西太美地区の地域おこし支援隊メンバーたちが小型重機を使うなどして復旧作業を展開。集落山側を流れる水路なども旧即成寺裏に広がる畑田を再生、耕作している小院瀬見くらぶや、田園でまづくりを行うHoney&Cotton(ハニー・アンド・コットン)も使った落ち葉を伐採する人もいるなど多彩に活躍する姿が見られた。富山市郷中町から参加した中村浩美さん(49)は初めて訪れた小院瀬見に「自然がすごくいい。機会があればまた参加したい」と感激した様子。このほかにも以前参加してリピーターになった人が多く、金沢市など県外からの参加者も増えるなど、関係人口がさらに増加しそうな雰囲気が小院瀬見自治会の堀宗夫会長は「江ざらいは集落の暮らしの維持や地域の振興に大きな効果がある。多くの人に集落の魅力を高めて、多くの人が来ていただきたい」と今後を期待を込めた。

**有志続々 過去最多の参加**  
**グループや団体、県外からも**

道路融雪の水を導く水路の土砂上げが暮らしを守る

## クマに注意!!

クマよけの花火を打ち上げる参加者

快晴自然も満喫

たっぴりの落ち葉も懸命に除去

## 河北潟湖沼研究会が集落視察

石川県の中央に位置する河北潟の水質改善や周辺帯の生態系保全などに取り組むNPO法人・河北潟湖沼研究所の関係者一行が11月20日、小院瀬見を訪れ、集落の散策対策や地域の振興策などについて視察した。

同研究所の高橋久理事長をはじめ南葉謙志郎さんらスタッフ、河北潟に近い吉倉、俱利伽羅地区の自然栽培農産物を行う8人、農地の生物の多様性などが河北潟一帯と似

## 地域を知り 愛して!! 砺波で「魅力再発見」シンポ

「となみ野ストーリー」発刊記念

旧砺波郡地域の尾田武雄さん(砺波市大田) 特別な歴史や文化が、美しい自然や景観を化、風土を紹介し、今も保ち続ける地域を知った「となみ野ストーリー」、愛することの大切さを「リ」の発刊記 訴えた。

となみ野ストーリーは、となみ野ストーリーは、全国に知られた砺波の散居村を11月15日、村をはじめ、独特の家の様子、砺波市のとなみ野、農産物、宗教、祭りやみ散居村コミュニティ、尾田さんが長年研究してきたアムで開かれ、著者の佐々木を写真とともに保護審議委員長、見のC.s.a.(カーサ)出版から発刊された。

シンポでは尾田さんが基調講演で、となみ野地域にある5千体もの石仏の特徴を紹介し、「そのうさま」と地元で呼ぶ地蔵が特に多く、幕末か

ら明治期に作られたことや、現代の青年団に当たる若連中が主体となって作ったことも説明した。さらに「村を美しくしよう」という心が昔も、今もとなみ野に根付いている」とも強調し、「地域のことを再認識してほしい」と呼びかけた。

砺波市庄川町東見地区自治振興会の宮澤大作会長、同市中心市街地創造研究会の熊野昭太会長が加わった。パネルディスカッションでは若者が地元の魅力を愛する心を育むことの必要性などを語り合った。小院瀬見の田園の自然栽培まづくりや養蜂、芸術活動などを展開しているHoney&Cotton(ハニー・アンド・コットン)共同代表の園本紗季さんが司会・コーディネーターを担当した。

## 「獣害対策の効果など」視察する研究会一行

大の原因はノシンの進入。長ははじめ南葉謙志郎さんらスタッフ、河北潟に近い吉倉、俱利伽羅地区の自然栽培農産物を行う8人、農地の生物の多様性などが河北潟一帯と似

## 20年前に廃寺となった即成寺跡で除夜の鐘

20年前に廃寺となった即成寺跡で除夜の鐘が復活したのは3年前。本堂などが解体され、唯一残った鐘楼も撤去(しゅも)が撤去された。当時まだ金沢市にいて小院瀬見への移住の準備をしていた黒梅明さん(77)が「残念に思い、新しい鐘木に作り替えた。以来毎年、地区外からも人が訪れ、鐘をつくとともに地元住民が年越しそばなどを用意し、隣の清防電所でお酒も飲みながら新年を祝っている。今年も誰でも参加可能。

## 今年も除夜の鐘に来て

小院瀬見の即成寺跡に残る鐘楼で今年も大みそかの17日31日深夜に除夜の鐘のイベントが行われる。今や集落恒例となった行事。住民らは多くの人たちに来訪を呼び掛け、にぎやかな年越しを楽しみにしている。

イベントは17日午後11時半ごろから地元の人らが集まり、午前零時を前に鐘つきを始める。順番に108回の鐘をついていく。

